



特集

— ごみの有料化から1年が経過して変わったこと —

▼ごみの有料化から1年
埋め立て地の延命に貢献

令和4年10月から一般ごみの分別（可燃ごみ・不燃ごみ）が始まり、1年が経過しました。市民の皆様におかれましては、ごみ分別にご協力をいただき誠にありがとうございます。

剣淵町一般廃棄物最終処分場では、一般ごみ分別化により、ごみ埋め立て地の延命化が図られました。今まで一般ごみとして廃棄されてきたものの中には資源ごみも含まれていたこともあり、分別により今まで以上に環境資源の保全につながっています。

分別されたごみは、可燃ごみは愛別町外3町塵芥処理組合、不燃ごみは剣淵町一般廃棄物最終処分場埋立地、資源ごみは士別市リサイクルセンターに運ばれます。

▼処分場の埋め立て状況

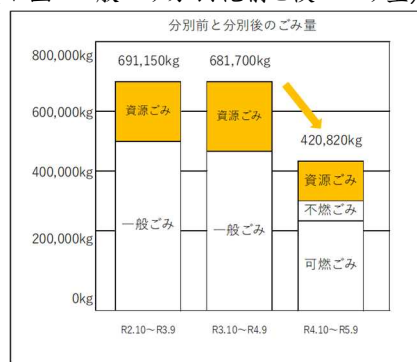


▼ごみの量が約4割減少

さて、分別化されたことにより、ごみの量はようになったのでしょうか。

今まで一般ごみ（可燃・不燃の混合ごみ）として廃棄されていたものが、有料の指定ごみ袋となり、分別意識が高まったことにより、可燃ごみ・不燃ごみ・資源ごみに分別され、ごみの総量が減少していることがわかります（左図参照）。令和3年度と令和4年度を比較しますと、**約38%の減少**となりました。今後とも分別の徹底をお願いするとともに、日頃からごみ自体の量を減らす工夫をお願いいたします。

（▼図：一般ごみ分別化前と後のごみ量）



▼これからも施設を
維持するために

現在、ごみの最終処分場となっている国内の埋め立て地は、あと20年足らずでいっぱいとなつてしまい、剣淵町では、一般ごみの分別化をしていなければあと3年ほどで埋め立てが出来なくなるところでした。ごみを減らさなければ、近い将来、ごみが捨てられずに日本中がごみだらけになってしまうというのも大げさな話ではありません。

今後一人ひとりがごみを分別するとともにごみを減らす意識を持つことが重要です。

これからご協力をよろしく
お願いいたします。



再確認



ごみを捨てる時に気をつけること

▼ごみの分別は徹底的に

ごみの分別にご協力いただいています。時折分別されないまままでごみを出されていることがあります。搬入された資源ごみは職員の手で再度確認しています。汚れのひどいものに限り、洗剤で洗ったりすることで別の環境負荷につながるため、「可燃ごみ」として出してもかまいません。ごみを出す際は、分別ができているか確認をお願いします。

【実際にあった困ったごみ】

- ・紙パック飲料の中身を洗わないままテープで穴に蓋をし、資源ごみとして出されている。
- ・資源ごみ袋の中に、レシートや割り箸、未洗浄の資源ごみなどの可燃ごみが混ざっている。
- ・ペットボトルや空き缶の中身を洗わないで出されている。
- ・たばこの空き箱に吸い殻が入った状態で資源ごみとして出されている。

▼資源ごみの出し方

①異物を取り除く

金属やガラスなどの異物が混ざると分けるのが大変だけでなく、場合によってはリサイクルするための機械が壊れてしまったり、作業員のケガや事故につながることもあります。

②中をすすいで乾かす

食べ残しや中身が入ったまま出さないでください。腐敗し異臭の原因となり、他の資源ごみが汚されることもあります。しっかりと洗って乾かしてから、ごみを出しましょう。

③「容器包装」を確認する

レジ袋やボトル類、チューブ類などが「容器包装」として資源ごみで出せます。プラスチック製のおもちゃや、歯ブラシ、使用済みの食品ラップ等は別のごみになりますので、分別をお願いします。



捨てればごみ、分ければ資源、
みんなできれいなまちづくりをすすめましょう